

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人 康整会		
事業所名	グループホームツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5丁目18番28号		
自己評価作成日	平成30年8月24日	評価結果確定日	平成30年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成30年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

母体の医療機関だけでなく、他協力医療機関とも連携を図り、各ユニットに配属されている看護師により、日々の健康管理から終末ケアまで対応し、運営方針に則って、一人一人の個性を大切に、寄り添い、日々の生活を安心して笑顔で過ごして頂けるような施設であるよう心掛けている。(こもれび)母体の医療機関のもと、入居者の体調変化時の連携をとり、他協力医療機関とも随時対応出来ている。各ユニットに看護師を配置し、終末ケアにも対応している。(せせらぎ)母体の医療機関と連携を図り、各ユニットに看護師資格を持つ職員を配置。終末ケアにも対応している。一人お一人の個性を大切に、寄り添い、共に笑って過ごせる施設を目指している。(そよかぜ)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームツーハーツ」は医療法人を母体に持ち、近隣の次郎丸近郊でも複数の系列事業所がある。当事業所は複合施設の一部にあり、3ユニットで運営されている。母体が病院である強みを生かして看護師の配置も手厚く、医療ケアには特に力を入れている。入居者のADLの状態もみながら、力を発揮できるように日常生活の手伝いなども積極的にしてもらっている。毎週定期的に理学療法士も派遣されており、それぞれの個別のリハビリを法人のサービスとして提供している。訪問診療も週3回と多く、医療連携の手厚さは入居者、家族だけでなく、スタッフに対しても安心感を与えている。複合型施設の利点を生かし、入居者の移動や、情報の共有なども図られ、総合的なサービスが提供されている。今後は益々地域との連携が図られ、終の棲家としての存在感の発揮が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果							
自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に運営理念、運営方針をもとに行動できるよう、個々に名札ケースに理念カードを携行し、申し送り時には唱和している。また、カンファレンスで協議した事柄を実践している。	個々の名札に理念カードを携行し、何時でも確認できるようにしており、唱和している。	個々の名札に携行し、何時でも確認できるようにしている。また、ユニットカンファレンスをひと月に1度開催し、理念に基づいたケアを実践している。	開設時に作られた法人理念を共有して、掲示や携行している。ユニットごとの申し送り時にも唱和もしている。各ユニットごとに理念に基づいた目標も定めている。入職時には施設長からのオリエンテーションで理念についても伝える。現任者に対しても適宜フォローに入り、気づいた点を伝えることで理念に沿った行動が出来るように働きかけている。	共有は日々の実践で進んできているが、実践に関してもう一歩踏み込むために、個別面談や個別の目標設定の振り返りによって、より具体的な実践につながる事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	恒例行事に地域の方々を招き、交流を深め、触れ合いを通して地域の方々との信頼関係を築いている。また、中学校の職場体験や専門学校からの実習受け入れを行っている。	恒例行事に地域の方を招き、演劇や歌など、一緒に楽しまれたり、隣接する中学校の職場体験や専門学校からの実習受け入れをしている。	恒例行事に地域の方を招き、夏祭りや演劇、歌などを一緒に楽しまれたり、地域の中学校の職場体験や専門学校からの実習受け入れをしている。	施設全体での合同夏祭りは毎年定期的に開催し、チラシをもって案内に回り地域の方もお招きしている。敬老会、クリスマス会も合同開催している。幼稚園の運動会や公民館の文化祭などには入居者と一緒に見学にも行く。自治活動にも参加し、地域清掃にも職員が手伝いに行っている。ボランティアで傾聴やアニマルセラピーなどの受入れも毎月何がしかの形で来てもらっている。	地域に対しての認知症啓もうや介護に関する情報発信など、出来る範囲での外部に向けた取り組みが検討されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進運営会議を開催し、グループホームを理解して頂くために、支援方法のアドバイスや認知症への理解を深めて頂くよう努めている。	地域運営推進会議にて本来のグループホームを理解して頂くため、困難事例に対して支援方法を説明したり、認知症介護の理解が深められるよう努めている。	運営推進会議にて本来のグループホームを理解して頂くため、困難な事例に対し発表を行い対策・対応を考察し、認知症介護の知識・理解を得るようつとめている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族へも参加して頂き、日常の状況、行事や今後の活動報告を行い、行政との意見交換を行いながら、より良い生活を送って頂くための話し合いを行っている。	定期的開催し、入居者状況や行事報告を行い、参加者の行政機関への質疑応答もあり参考になっている。	ひと月に一度開催しており、入居者の状況や活動内容を報告。参加者の行政機関への質疑応答もあり、知識を深めている。	定期的に4Fの会議室で開催し、自治会長、民生委員、外部のケアマネ、地域包括など広く案内し、毎回20名前後の方が参加されている。家族にも全員に案内し、4、5名が来られる。直近のレクの様子などを写真付きで報告し、状況報告のほか、質疑などもよく出されており、地域の相談を受けることもある。	議事録を来られなかった家族にも伝えることで、取り組み内容を理解してもらい、情報の共有につなげてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所からの参加もあり、意見・情報交換を行いながら、連携をとっている。	地域運営推進会議にて、市、地域包括支援センター等の方にご参加頂き、意見交換やアドバイスを求めている。	運営推進会議の案内状を送付し、意見交換や情報の共有を行っている。	運営推進会議の案内も毎回だしており、年に1回程度は参加もされている。入居状況の報告も行き、紹介を頂くこともあった。法改正に関して等、質問事項がある時は事務を通して電話で聞いている。地域の連絡協議会などで行政担当者に来て話してもらう事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や外部研修において、職員への教育を行い、理解を深め、拘束のないケアを実践している。	施設内研修において職員の理解を深め、毎月行う身体拘束廃止委員会にて、各部署との意見交換を行い拘束のないケアを実践している。	定期的に行われる施設内研修にて職員の理解を深め、意見交換を行い拘束をしない介護を実践している。	各ユニットの入り口も施錠しておらず、内部での移動も自由にできる。外玄関は常時受付があり、離設事故もなかった。施設全体の身体拘束廃止委員会があり、研修も定期的に行っている。原則拘束行為をしない方針で、家族の要望があっても別の方法で対応し、今までに拘束事例もなかった。	

H30.9自己・外部評価表(ツウ・ハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修においてスタッフの理解を深め、意見交換を行い、未然に防げるように意識付けをしている。	施設内研修において、職員の理解を深めている。グループワークにて意見交換を行い、防止対策を考案し、未然に防げるよう職員に意識付けを徹底している。	定期的に行われる施設内研修にて職員の理解を深め、法令遵守会議でも確認し、事例をあげてスタッフ同士での不適切ケアチェックを行い、対応・対策を考え未然に防いでいる		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学び、対象者がいれば対応できるように徹底している。	現在対象者はいないが、必要に応じて対応できるよう施設内研修で取り上げ、理解を深めている。	施設内研修にて学び、外部研修参加の機会も得て理解を深めている	自立支援事業と成年後見制度を使っている入居者がおり、入居後に制度を活用するようになった。施設内研修も毎年1回は定期的に開催し、外部研修も機会のある時に参加するが、直近ではなかった。職員も基本的な制度についての理解はしている。	外部研修の参加機会がなかったため、担当を決めるなどで参加を促してはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規程を読み上げ、十分な説明をし、ご理解、ご納得頂いたうえで契約書へのサインを頂くようにしている。	契約の際、重要事項説明書、運営規程等を読み上げ説明し、疑問・不安の解決を行っている。	契約の際に重要事項説明書、運営規程等を読み上げ説明し、不安や疑問点の解決を行い、契約時には必ず職員2名で対応することで、十分な説明が出来るようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、アンケートなどにより、ご意見、ご相談を受ける機会を設けている。ご要望があれば対応についてカンファレンスにて意見交換している。	外部からの意見・要望を入れられる意見箱を入口に設置し、面会時にも声掛けを行い、意見・要望を職員間で共有し、運営に反映させるようにしている。	出入り口に意見箱を設置し、ご家族の面会時に声掛けを行い、要望などを尋ね、スタッフ間で意見を出し合い対処を行う。	年1回家族会を開催しており20名程度が参加され、その際にアンケートも事前配布し集計結果も報告する。昨年は食事や職員の言葉遣いに対する意見があり、直ぐに改善を行い、掲示板でも報告している。日頃の意見は面会時に聞くことが多いが、来られない方にはメールや随時の報告をしている。施設全体で発行する「ツウ・ハーツ便り」があり、レクの報告などにつなげている。	変化があった際の報告は口頭でされているが、アンケートの意見もあり、健康状態や薬の状況など、書面で残る形にしたり、面談の場として定期的に設けることなども検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議にて、法人代表や管理者が話し合う場が設けられている。また、グループホーム会議やユニット毎のカンファレンスにて意見交換している。	定期的に行われる運営会議、グループホーム会議にて話し合いの場を設け、報告・意見・提案を運営に反映させている。	毎月行われるグループホーム会議や施設内研修、ユニットカンファレンスで施設長を含む運営に関するスタッフ間の意見交換を行い、問題解決を行う。	同日に時間を分けて、ユニット会議、全体会議をパート職員も含め原則全員参加で開催している。会議ではユニットごとの入居者情報のほか、全体での情報を共有しており、ケア内容やユニット間の協力的体制についても話し合われている。意見も出しやすく、勤務時間などについても柔軟に対応に繋げており、備品の手はないなど含め改善に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、資格取得などの諸条件にて、職場環境は充実している。	勤務実績、勤務状況、資格取得などの諸条件にて賃金上げや正社員雇用など、雇用条件の向上が図られている。	各々の勤務実績・形態、資格取得等の諸条件にて社員登用を行うなど、勤務条件や就業環境の改善が図られ、安定した給与水準も確保されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、働く意志のある人には環境が整っている。	年齢、性別に関係なく働く意志のある健康な人であれば採用されていて、経験を活かせる職場であり、個々が目標を持ってお互いをサポートしながら生き生きと働いている。	年齢・性別による採用の可否はなく、働く意思のある健康な方であれば採用され、経験を活かせる職場であり、目標を持ってスタッフ間でサポートしながら働いている。	20～70歳代までの職員がおり、男女比は3:7程度で配置されている。内部研修も充実しており、外部研修も案内はあるが指示外のは各自の裁量での自由参加となっている。職員もそれぞれの能力を生かして制作や実務などに役立っている。休憩時間や場所もメリハリをもって確保されている。	外部研修参加に関しても、職員の自発性が後押しできるような事業所としての支援も検討されてはどうだろうか。また、定着率を高めるための取組について職員を含め全体での問題提議や検討が続けられていく事にも期待したい。

H30.9自己・外部評価表(ツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修にて理解を深め、支援の中で活かされている。	施設内研修に取り入れられており、支援の中で活かされている。特に接遇に関して、言葉遣い等で、入居者の尊厳を損なわないよう徹底指導している。	施設内研修テーマに取り上げられており、入居者様の人権を損なわないよう徹底指導が行われている。	入職時の研修によって人権やリスクマネジメントに関する内容も伝えている。月次の研修にもコンプライアンスのテーマなどについて取り上げている。認知症実践者研修も勤務として職員に参加してもらっており、その中でも人権に関する学習項目がある。直近でも参加者がおり、研修報告もされている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加は、法人の補助があり、業務扱いとなるものもある。スタッフ同士、日々意見交換しながら、業務の向上を図っている。	施設内研修を毎月開催している。外部研修参加への援助について、法人からの補助体制が構築されている。内容によっては勤務扱いのものもある。	施設内研修を毎月開催し、外部研修への参加について法人からの援助、補助体制があり、現場へのフィードバックも行い、個々のモチベーションも上がっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議では、他事業所にも出席してもらい、意見交換の場となっている。	近隣のグループホームでつくられた会に入会し、勉強会等に参加したり、情報を収集したりしている。外部研修に参加した際にも、他事業所とのネットワーク作りに努めている。	外部研修に参加した際、他の同業者とのネットワーク作りを心掛け、地域運営推進会議では出席を促し、意見交換の場にもなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集にて徐々に信頼関係を築き、傾聴、受容の姿勢で安心して生活できるようにしている。	入居前の情報収集や、面接を行い、徐々に信頼を深め、本人が安心して生活出来るようにしている。	入居前の情報収集や、本人との対話を行い、徐々に信頼を深める。今までの生活習慣を優先してケアにあたり、安心して生活ができるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、要望・意見を聞き、不安を感じないよう信頼関係を築いていく。	事前面接を行い、要望、意見などを聞き、安心される介護を提供している。	入居前、契約時に事前面接を行い、御家族の要望や意見などを取り入れ、不安を感じる事が無いようにスタッフ間での情報共有を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集、面談で必要とされる支援を把握し、安心できるサービスを提供する。	入居前情報の収集や、事前面談で必要とされる支援を見極め対応している。	入居前の情報や、事前面談によるサービス計画書を作成し、安心して生活ができるという理解を得られる支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごすしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と過ごす時間を多く持ち、本人らしさを受け入れ、共に寄り添う関係を築く。	歌や体操など職員と一緒に過ごす時間を多く取り入れ、共にしえあう関係を築いている。	声掛けを行い、ご本人ができる範囲でのお手伝いをしていただく事で、職員との時間を多く取り入れ、コミュニケーションをとり、信頼関係を築いていく。		
21		○本人と共にしえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	メールや電話にて、日々の生活状況の報告などを行い、双方が安心して生活できるよう心掛けている。	ご家族と過ごされた時間の会話や表情など情報交換しながら、充実した生活が送れるよう心掛けている。	ご家族と過ごされた時間、ご自身の過去のお話を傾聴し、面会時に近況の報告を行い、しえあう生活を行っている。		

H30.9自己・外部評価表(ツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかぜ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、いつでも受け入れ、昔利用してあった散髪の方に来て頂いたりしている。	家族の協力の下で対応している。友人との面会はプライバシーの観点により、事前に家族に確認を取り対応している。	家族の協力の下で対応し、面会を常に受け入れ、楽しい会話の場を支援している。	家族は半数程度が月1回以上の面会に来られ、それ以外にはなじみの理髪店出張依頼して散髪に来てもらったり、以前の知人が来る方がいる。定期的に外泊する方もおり、墓参りなどにも行っている。関係が疎遠な方に対して間に入って連絡をとることもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が希望される席に座って頂く。日頃から、利用者同士の関わりを観察、把握し、楽しい時間が過ごせるよう環境を整えている。	入居者の相性を考慮し、日頃の座席配置を配慮している。職員がサポートしながら入居者間の関係構築の援助を行っている。	各利用者同士の相性を考え、座席の配置を考慮。スタッフがサポートを行い、利用者間の関係を支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても相談があれば対応できる事、いつでも訪問できる事を伝えている。	他施設へ転居など、当施設を退居した後も相談があれば対応できる旨を契約時、退居時に説明している。	退去された後も相談ができることを契約時、退去時に説明し、いつでも訪問できるように信頼関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時や、日頃の会話等の中から把握できるよう努めている。	日頃の関わりの中で、対話を重視し、本人の意向や思いを把握するように努めている。	日々のコミュニケーションで対話を重視。本人の思いや意向の把握に努めている。	入居時にフェイスシートを取得し、その後はアセスメント表を3ヶ月ごとに取り直して状況を把握している。フェイスシートも介護更新時には見直している。意思疎通の難しい方には日頃の発語やコミュニケーション、現場からの意見も参考にして意向の把握に繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や、入居後に家族や入居者の関係各所から情報を集めて、把握できるように努めている。	事前面談やケアマネからの情報提供、家族からの情報を基に把握している。	ご家族からの入居前情報を基に、生活環境が急変しないようつとめている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子、入居者の変化をスタッフ間で共有するため、記録に残したり、ミーティング時に話すようにして、現状の把握に努めている。	日々の生活の状態を申し送りの中でしっかりと伝えること、記録に残すことで把握に努めている。	本人の残存能力を極力支援し、日々の生活の状態を記録に残し、申し送りでスタッフ間での情報共有を行う。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで今後のケアについて話し合ったり、家族や入居者、関係者と話し合い、介護に対する要望等を十分に聞き取り、介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスに全職員が集い、本人、家族の要望を基に話し合い、介護計画に反映させている。	毎月カンファレンスを行い、本人、ご家族の要望を基に全職員で話し合い、介護計画を作成している。	プラン作成は各ユニットの計画作成担当が行い、ケアマネが監修している。入居者ごとに担当者も定め、モニタリングやアセスメント、担当者会議報告などを担う。プラン目標ごとの日々の実施チェックも記録し、モニタリングにもつなげている。短期プランの見直しを3ヶ月で行い、その際に担当者会議も開催し、理学療法士などから意見も頂いている。	プラン作成時に他職種からも意見をもっているが、担当者会議録に照会内容や日時、担当を記載することで、漏れの無いチームケアにつなげてみてはどうだろうか。

H30.9自己・外部評価表(ツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、申し送り、カンファレンスで情報の共有を図り、日々の情報把握を行い実践に活かしている。	申し送りノート、介護日誌にて情報を共有し、気づきなどあればカンファレンスで話し合い、介護計画へ反映、ケアへの実践を行っている。	申し送りノート、個人カルテに記録を行い、職員間で情報を共有している。毎月のカンファレンスで気づきや工夫を介護計画へ反映、ケアへの実践を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体のケアとして、希望時、必要時、母体である医院以外の専門医とも連携をとって、通院援助等、専門の診療を受けて頂く為の支援を行っている。	本人、家族の要望を取り入れた支援を行い、母体の医療機関、併設施設との連携を行い、季節感を感じられる行事を開催している。	本人、ご家族の要望により整形外科の対応、訪問リハビリ、訪問歯科等、個別の対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア団体や個人ボランティアの受け入れを行っている。地域資源を活用して、外出を行うなど、周囲との触れ合いを大切にできる環境づくりに努めている。	地域運営推進会議に地域役員、民生委員、地域包括支援センターを招き、意見交換・情報抵抗を行っている。また、地域ボランティアなどの受け入れを行い、楽しい時間を設けている。	地域や個人のボランティアを受け入れ、楽しく賑やかな時間を作る。近隣の中学校の職場体験、専門学校からの実習生を受け入れ交流を図る。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に情報を共有している。受診時は施設の送迎を手配し、安心して受診できる体制を整えている。	母体の医療機関との連携を常にとりながら、入居者にかかりつけの医療機関があれば、通院の支援もしている。	本人及び家族が希望であればかかりつけ医の受診を継続し、日々の状況を伝える。	母体が病院であることも多いが、かかりつけになることが多いが、認知症の専門医などは協力病院を紹介して医療連携している。母体からの訪問診療が週に3回と、24hのオンコール体制もあり、迅速な医療対応がなされている。他科受診の際などは家族にも付き添ってもらい、医療情報を共有する。施設全体で看護師も多数配置され、日頃の健康管理にも協力して努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時、急変時は他のユニットの看護師が連携して対応している。必要時、受診の付添や入退院の手配を行う。	各ユニットに看護師がおり、情報共有しながら、協力体制をとっている。	体調不良、急変時に各ユニットの看護師が対応を行う。状況に応じて受診付き添い、入院手配を行う。勤務時間外にも連絡がとれ、必要に応じて出勤する。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、看護師等が医療機関との連携を密にとり、医療スタッフとの情報交換により、信頼関係のつづけている。	入院時は定期的に面会に行き、医療機関との情報交換を行い、病院職員との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者または看護師が病院に訪問し、情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りカンファレンスを医師、家族、職員で行い、施設でできるケアを了承していただいた上で、慣れ親しんだ環境で、ゆっくり過ごして頂けるよう支援を行っている。	早い段階より家族とのカンファレンスを行い、再度終末期に向け医師・家族、管理者・GH職員にてカンファレンスを行い、支援を行っている。	施設でできる事を十分説明し納得を頂いて対応している。医師・家族との話し合いの場を設けている。医療機関と連携し、慣れた環境で最期まで穏やかに過ごせるよう支援している。	看取りまで行う方針で、重度化の際には医師と共に「看取り介護に関する同意書」を取り交わし、説明を行っている。当初より終末期ケアに取り組んでおり、これまでも多くの方を看取ってきた。研修も定期に開催し、医療機関とも連携をとることで体制を整えている。対応時には看取りプランも立てている。	

H30.9自己・外部評価表(ツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に4回、救急蘇生の研修があり、全スタッフが熟知している。	年に4回、救急蘇生の研修会があり、全スタッフが熟知している。	年に4回、早良区防災センターより講師をお招きし、救急蘇生の研修会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は年に2回実施され、初期消火活動、避難方法等を学んでいる。防災マニュアルは地震・水害も含めた点で見直し中。	防火訓練は年に2回実施され、初期消火活動、避難方法等を学んでいる。現在、避難方法等、見直し中。	防火訓練を年に2回実施されており、初期の消火活動や避難方法を学んでいる。消防計画書や機器の取り扱いマニュアルなどは常にわかりやすい位置に設置している。	施設全体での訓練を実施し、直近では2回とも日中想定で業者に立ち会ってもらい、消防に報告も出している。非常時には近隣に住んでいる職員の駆けつけや、連絡網体制を整えている。防災マニュアルも整備し、入職時の伝達も行う。	地域の防災訓練がされているかどうかの情報収集や、地域との連携体制の構築も今後は検討されてはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄介助時はプライバシーを確保し、人権を尊重している。入居者に対して、赤ちゃん言葉を使うなど、誇りを損なうような言葉がけは行わないようにしている。	入浴、排泄介助時はプライバシーを確保し、人権を尊重するよう徹底している。常に入居者の尊厳を大切にしている。	入浴、排泄介助時はプライバシーを確保し、人権を尊重する声掛けを行っている。声掛けの仕方や、プライバシーの尊重は施設内研修の年間カリキュラムにも組み込まれている。	施設内研修で定期的にマナーやモラルなどについても取り上げており、今年度は電話対応に関して学んだ。日頃も言葉かけなどが命令口調や威圧的にならないよう、その都度注意している。個人情報保護についてもコンプライアンスの中で学習している。写真などの肖像利用についても書面で事前に同意を得た方だけに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや、希望が伝えやすいよう、日頃より会話する機会を多く持ち、気軽に話せる環境づくりに努めている。	思いや希望が伝えやすいよう、常日頃より対話を多くして、寄り添い、気楽に気持ちを表現したり、自己決定の機会を多く持てるように支援している。	普段から笑顔で声掛けし、安心して思った事を言えるように心がけている。自己決定が難しい場合も選択肢をできるだけわかりやすく提示し希望を汲み取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けに拒否があれば時間をおいて再度声掛けするなど、個々のペースに合わせた対応をしている。	個々のペースに合わせた声掛けを行い、レクリエーション、歌、体操参加も強制はせず、拒否があれば時間をおいて再度声掛けするなど、配慮している。	一人ひとりの状態を観察し、拒否があるときは無理強いをせずその人にあわせてはたらきかけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身だしなみが保てるよう衣類の管理は家族の協力のもと行っている。入居者が選んで着た服を褒めたり、会話の糸口にすることで、喜んでいただけるよう努めている。また、月に1回の訪問理美容だけでなく、近所の理容室に出掛けるための支援もしている。	身に着けている服をほめたり、訪問理美容の際は好みの髪型など相談に乗って決める。	入居時や季節の変わり目等に家族が本人の好みの衣類を持ち込み、本人の好きな衣服を着用頂いている。訪問理美容で好みの髪型にできる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	落ち着いて食事が出来るよう、音楽を流し、職員と一緒に食事を囲み楽しく食事している。準備や、食器洗いも出来る限りお手伝い頂いている。	落ち着いて食事が出来る様に音楽を流し、スタッフも同じテーブルとともに食事している。味付けの評価も共に行う。	音楽を流し落ち着いた雰囲気の中、職員も一緒に食卓を囲み、メニューや味付けの感想など会話しながら食事をしている。本人の能力に合わせて洗い物や片づけを一緒にしている。	施設全体の集合厨房があり、そこから配食されている。テーブルはつなげたり離したりできるタイプで、落ち着いて食事ができる雰囲気を作っている。手伝える方には台拭きや配下膳などしてもらう事もある。感想は給食会議であげて反映もされている。おやつをバイキング形式にすることもあり、非常に喜ばれた。イベント時に魚の解体やお寿司などアトラクション的に提供することもある。	

H30.9自己・外部評価表(ツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しなどがあれば声掛けて食べて頂くよう促している。水分もゆっくりと時間を掛けて飲んでいただけているようにしている。	食思観察を常に行い、摂取できないときは形態を変え、摂取しやすくしている。昼間、水分補給が出来なかったときは、夕方出来る様にスタッフ間で情報を共有している。	栄養士が栄養バランスを管理し、個々の体調や病状、咀嚼、嚥下状態に応じた食事を提供、食べやすいよう食事形態を変更できる。摂取量が少ないときは補助栄養食品などで補っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの見守りや、介助を行っている。義歯洗浄は隔日行っている。	歯磨きが出来ない方には、洗浄液にてスタッフがブラッシングを行う。義歯洗浄は隔日実施している。	毎食後に口腔ケアの見守りや介助を行い、本人の状態に応じて歯間ブラシやスポンジブラシを使用している。夜間は義歯を取り外し、洗浄剤使用。往診歯科の受診をすることができる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人で出来る方は、時間をみてトイレでの排泄を声掛けし、必要であれば見守りも行う。	排便コントロールは看護師が医師の指示の元行っている。座位が保てる方には、トイレでの排便支援を実施している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ希望の意思表示が難しい方はその方特有のサインをキャッチし、早めのトイレ誘導をしている。座位を取れる方はトイレでの排便を支援している。	入居者それぞれに、1枚で1週間分が管理できる排泄チェック表がある。状態に合わせてパットの大きさを変更したり、見回りの時間を短くしたりと適宜対応の改善も話合っている。別途熱計表のなかで便秘期間も記録しており、状態に応じた処置につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便状況を確認している。便秘の方には、水分の補給や緩下剤の使用にて対応している。	水分補給は充分に出来るようチェックしている。(1.5ℓ/日)個々の排便観察を毎日行い、便秘の方には医師による緩下剤の処方あり。	水分摂取と運動での便秘予防を基本とし、排泄チェック表で排便状況の確認を行っている。水分摂取が少ない方には水分摂取量チェック表を活用し飲水をすすめている。便秘の方には医師による緩下剤処方あり。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時、声掛けしながら、落ち着いてゆっくりとした時間をすごせるよう支援している。入浴の拒否があれば、日程を変更している。	声掛けし、入浴を拒否された場合は、スタッフを変えて再度声掛けする。更に拒否があれば、翌日に変更する。午前中の中入浴が困難であれば、午後へ変更する等、個別に対応している。	できるだけ個別にタイミングを合わせ、拒否の強い方に関しては声掛けの工夫やスタッフの交代、時間や日にちをずらすなどして対応できている。	ユニット間の造りは共通で個室である。概ね一人週2~3回の入浴で午前~午後にかけて対応している。時間帯は範囲の中で希望に応じ、入浴日以外に対応することもある。2人体制で介助することもあり、希望があれば拘縮の強い方でも浴槽まで使ってもらっている。昨年「浴槽付きベッド」を1台導入し、寝たきりの方でも入浴できるようになった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個別対応している。夜の時間帯にぐっすり入眠して頂くため、日中は職員と談話したり歌ったりして、出来る限りフロアで過ごして頂くようにしている。	入眠時間は個別に対応。午睡をしない方は、フロアで楽しく談話して過ごせるよう支援している。	日中午睡の時間があり、午睡を希望されない方もその方に応じてフロアや居室で思い思いに過ごしている。本人の夜間入眠パターンを把握した上で個別に対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報や、新しく処方された薬については、担当薬剤師に確認したり、スタッフ間でも情報を共有して理解するようにしている。	いつでも見れる場所に薬剤情報を保管し、新しく処方された薬は看護師が効能と副作用の観察についてスタッフに伝達している。	薬剤の処方確認表を分かりやすい場所に保管し、処方薬の確認をしている。処方日には薬剤師の管理を受け、副作用の有無、経過などの報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はお手伝いして頂いたり、一緒に体操したり歌ったりする中で張り合いを見出して頂くよう支援している。	入居者にしていただいたお手伝い、スタッフが感謝の言葉を伝えることで、喜んで頂いている。音楽等のレクリエーションはとて喜ばれるため、併設されたデイサービスでのイベントにも出来るだけ参加できるようにしている。	洗い物や洗濯物たたみ等できる事をお手伝いしていただいた時は感謝の言葉を伝え、やり甲斐や自信を持っていただいている。新聞読み、好きなTV視聴、好みの音楽を流すなどしている。		

H30.9自己・外部評価表(ツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価(こもれび)	自己評価(せせらぎ)	自己評価(そよかせ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、花見や花火鑑賞、地域の運動会やイルミネーション見学等に出掛け、楽しんで頂いている。個別に家族やスタッフと外出を行う場合もある。	季節を肌で感じて頂く為に、個々の体調を考慮しながら積極的に外気浴を取り入れている。花壇に花を植えたり、水遣りをしたり、している。また、個別に家族や、スタッフの同行で外出したりしている。	天気の良い日に体調に合わせて敷地内の外気浴や近所の散歩にスタッフと出かけている。個別に家族と外出・外食に出かけている。	入居者の重度化に伴い、全員での外出は難しくなったが、年に4回程度は全体でイルミネーション見物や、花見などに合同で外出している。家族に個別で連れだしてもらったり、計画外でも車で連れ出して近隣を回ったり、散歩にも行っている。夏には屋上から校区の花火見物も楽しんでいる。	アンケートに家庭菜園の要望もあり、出来る範囲で取り組みが検討されることにも期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は金銭管理は行っていない。(事務対応)移動パンや、移動売店での買物を楽しんでいる。	お金を使う意思決定が出来る方はいない為、金銭の管理は行っていないが、移動パン屋等においての買物時間を確保し支援している。	金銭的な事は事務にて管理。移動パン屋を利用し買い物の支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、家族の了承を得て、何時でも電話できるようにしている。	自らの意志では便りなどは書けないため、スタッフがメールや電話にて入居者の近況を報告している。	本人の意思で電話をかけることや手紙を書くことが難しいが、家族や知人から届いた手紙の読み聞かせをしたり、希望に応じて電話の取次ぎをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、換気や湿度に充分配慮している。共用部分には、やさしい色を使った配色で飾りつけをし、穏やかな気分で過ごせるよう心掛けている。	フロア内の空調は、入居者様の体調に併せて調整している。季節感を取り入れるため、クリスマスやお正月など、その時期ごとの飾りつけを行ったりしている。	温湿度計を設置しエアコンで温度調整、乾燥時期は加湿器を各居室やフロアで使用している。不快な臭気がしないよう消臭剤を使用している。月ごとに季節感のある壁飾りを作成し見やすい場所に貼っている。	上下2階に3ユニットが配置されており、概ね造りは共通である。床はタイルカーペットで柔らかく、基本は内履きで過ごされており、かえって滑ることもなく転倒の危険も抑えられている。汚染時はその部分だけ洗浄することもでき感染症の蔓延もなかった。換気や室温管理には気を配り、清潔を保っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置し、自席以外でも寛げる場所を設けている。気の合いそうな入居者同士が近くに座れるよう、椅子の配置に気を配っている。	共用空間では、気の合った方々が近くに座れるよう、椅子の配置などを決めている。	テーブル席はなじみの方向士が近くに座れるよう配置している。テーブル席以外にフロアにソファを置き居室以外でもゆっくり過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていたなじみの家具や、テレビ、布団等を持ち込んで頂き、心地よく過ごせる空間となっている。	家族や、入居者の希望にそった家具等を準備して頂き、配置している。	入居時に普段使用されていたタンスやテレビ、お位牌などを持ち込んでいただき、入居後もご家族の写真やぬいぐるみ等を飾ってなじみのある環境づくりに努めている。	持ち込みは基本的には自由で、家族の写真や使い慣れた置物などが飾られている。介護ベッドが事業所によって備え付けられているが、希望があれば自分で要望したものを準備することもできる。床材はフロアから続きのタイルカーペットだが掃除は毎日行い清潔にされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には個々の名札をつけている。又、トイレや洗面所等、大きな文字ですぐ分かるように札をつけ、ひとりでも利用できるようしている。入居者の動線には物は置かないようにし、常に整理整頓を心掛けている。	危険な物は適切に管理し、怪我や転倒の無いように見守りのなか自由に行動されている。	各居室に表札や浴室・トイレの入り口に分かりやすいよう表示をつけ、迷わずたどり着けるようにしている。フロア内・トイレ・浴室に手すりを設置している。		